兵庫県のハムシ（I）*

高　橋　寿　郎

Chrysomelid-Beetles (Coleoptera) from Hyōgō-Prefecture (I)

by Toshio Takahashi

まえがき

ハムシ類（Chrysomelidae-leaf beetles）は甲虫類（Coleoptera）の中でも非常に大きなグループで世界中で約50,000種から知られており，日本産も現在の知見では481種（Kimoto, 1964）産する。

総て食草性で，その大部分が害虫として，われわれの生活にも直接，間接の関係を有する。

日本並びにその近隣諸国のハムシ類はよく研究されており，その概要もほぼわかっている。

すなわち日本産ハムシで一番初めに学名を与えられたのは，古く1788年（光格天皇　天明8年，徳川十一代将軍家斉の時代）Cl. Fr. Hornstedt により Morphosphaera japonica (Hornstedt) イタビハムシである。その後19世紀の中期に至り Motschulsky の研究が出，後半になって Baly (1873 & 1874), Jacoby (1855), Harold(1877, 1878, 1879), Heyden(1879), Gorham (1885) 等の日本産ハムシ研究の重要な発表があった。

日本人による日本産ハムシの研究は20世紀始めから出発して，故松村松年博士，矢野宗幹氏，故名和梅吉氏，土井久作氏，桑山覚博士，故横山桐郎博士，故平山修次郎氏，神谷一男氏等々の研究が発表された。

一方20世紀の前半にはハムシ科の総括的研究がおこなわれ，中でも Heikertinger のAlticinae, Spaeth の Cassidinae, Goecke の Donaciinae, Laboissie'ne およびBlack の Galerucinae の研究はよく知られ日本産のものもふくまれている。

日本産のハムシの研究も次々と全般的にまとめられるようになり，その大部分は中条道夫博士により発表され，最近になり大野正男氏並びに木元新作博士による研究も相次いで発表され，その大体のハムシ相がはっりしてきた。

日本以外の日本近隣諸国のハムシ相もよく調査され，その大部分がわかっている。すなわち Maulik 並びに Jacoby のインド，ビルマのハムシ相，Chen の支那ハムシ相，Gressitt 博士並びに木元新作博士の支那，朝鮮のハムシ相，Gressitt 博士のミクロネシヤおよびポリネシヤ，ニューカレドニア，ニューギニヤのハムシ相，中条道夫博士の台湾，東南アジヤのハムシ等々と実に立派な業績がある。

以上の如く日本のハムシ相がはっきりしてきたのに兵庫県のハムシ相は未だ充分調査されていなく，これからの分野を多く残しているが，一応此処に現在までの知見をまとめて発表しておきたい。

本文を草するに当り日頃何かとご教示に預り兵庫県産ハムシ類の大部分の種について同定をお願いした香川大学　中条道夫博士並びにつねづね種々の論文のご恵与やご教示を得ている九州大学木元新作博士，東洋大学大野正男氏の方々に厚くお礼申し上げる。また，県下産ハムシ類標本のご恵与に預った先輩同好者諸氏のご厚意に対してもお礼申し上げる。

兵庫県産ハムシ相研究史

兵庫，すなわち神戸は兵庫の港として古く開けているので，欧米人の来訪者の多くが兵庫に立ち寄り，その関係で兵庫に関する昆虫の研究も日本の昆虫の研究とほぼ同じぐらいの時代から知られている。ハムシ類の研究についてみるに日本産のものの研究が Hornstedt のイタビハムシの記載以後 Motschulsky の論文が初めてであるが，この論文に使用された標本は兵庫産のものは1つもふくまれていなく，その次に出た Baly の研究が初めての兵庫県のハムシを取扱った研究と思われる。

以下兵庫県産ハムシ相研究の経過を文献によって眺めて見たい。各文献中の種の論議は一部を除いて省略，各種の項に譲った。貧弱な所有文献から選んだので洩れたものが多いと思うが，それ等についてご教示を得ば幸いである。

① 1873, Baly, J. S., Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science, Part. I.
Trans. Ent. Soc. London, pp.69～99.

p.69, Hiog, Donacia aeraria Baly（新種），現在D. lenzi Schönfeldt として取扱われている。

p.70, Hiogo, Lema concinnipennis Baly（新種）

＊兵庫県甲虫相資料，23.

Hiogo, Lema dilecta Baly (新種)

p.80, Hiogo, Clytra laeviuscula Ratzeburg (日本から初めての記録)

p. 81, Hiogo, Coptocephala orientalis Baly (新種)

p.89, Hiogo, Cryptocephalus scitulus Baly (新種)

p.94, Hiogo, Cryptocephalus fortunatus Baly (新種)

② 1874, Baly, J. S., Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to Science, Part. Ⅱ.

Trans Ent. Soc. London, pp.161～217.

p.177, Hiogo, Galleruca annulicornis Baly (新種) 現在属名 Pyrrhalta

p.178, Hiogo, Galleruca sagittariae Baly (新種), 現在は Hydrogaleruca nipponensis (Laboissiere) として取扱われている。

p.179, Hiogo, Aenidea armata Baly (新種), 属名は現在 Fleutiauxia p.184, Hiogo, Arthrotus variabilis Baly (新種), 現在Arthrotus niger Motschulsky として取扱われている。

p.184, Hiogo, Arthrotus cyanea Baly (新種), 属名は現在 Stenoluperus

p.213, Hiogo, Cassida vespertina Boheman

p.214, Hiogo, Coptocycla lewisii Baly (新種), 属名は現在 Thlaspida

p.215, Hiogo, Hispa japonica Baly (新種), 現在 Dactylispa angulosa (Solsky) と取扱われる。

p.216, Hiogo, Hispa subquadrata Baly (新種), 現在属名Dactylispa.

上記2論文は Motschulsky の論文以後初めての日本産ハムシ科の研究で数多くの種が新種として記載されているが, 上掲の如く Hiogo 産でも14種が新種として記録され, 2種が日本からの初めての記録をふくんでいる。勿論現在の知見で学名の変替しなくてはならぬものもあるが, 兵庫県産ハムシ科研究で初めての論文として貴重なものである。

③ 1879, L. v. Heyden, Die coleopterologische Ausbeute des Prof. Dr. Rein in Japan, 1874～1875.

Deut. Ent. Zeit., XXⅢ, Heft. Ⅱ, pp.321～365.

表題の如く Rein 博士1874～1875年の日本での採集旅行の結果である。ハムシ科は20種記録されている。兵庫産とはっきり記録のあるのは次の4種のみである。

Crysochus chinensis Baly, Chrysomela aurichalcea Mannerheim 現在 Oreina属, Haltica (Graptodera) caerulescens Baly 現在 Altica属, Aulacophora femoralis Motschulsky.

④ 1885, Jacoby, M., Descriptions of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his Second Journey from February 1880 to September 1881

Part. Ⅰ, Proc. Zool.Soc London, pp.190～211.

Part. Ⅱ, Proc. Zool. Soc. London, pp.719～755.

p.204, Kobe, Demotina bipunctata Jacoby (新種)

p.209, Hiogo, Phytodecta ruboustus Jacoby(新種) として記録されたが, 現在 Sinomela nigroplagiatus Baly として取扱われている。

p.731, Kobe, Phyllotreta tenebrosa Jacoby(新種), 現在属名は Luperomorpha (p.742, pl.46, f.5, Kobe, Luperus longicornis Jacoby(新種) として記録されたが, 現在 Stenoluperus nipponensis Laboissiere として取扱われている。)

p.750, pl. 46, f. 8, Kobe, Maiyasan, Aemidea tibialis Jacoby (新種), 現在Cerophysa属。

この論文はタイトルにあるが如く G. Lewis の1880年2月から1881年9月までの日本における採集旅行の結果をまとめられたもので, 多くの日本産ハムシ科の新種の記載がふくまれている。Hiogo, Kobe 産として記録されているのは上掲5種のみである。

⑤ 1888, Schönfeldt, Eine neue Donacia aus Japan

Ent. Nach. Jahrg. XⅣ, Nr. 3, pp.33～34.

Hiogo, Donacia lenzi Schönfeldt

⑥ 1893, Lewis, G. A List of Coleoptera new to the Fauna of Japan, with Notices of unrecorded Synonymus

Entomologist, XXⅥ, 360, pp.150～153.

p.153, Donacia aeraria BalyをD. lenzi Schönfeldt のシノニムとして取扱い, 産地に Kobe の記録がある。

⑦ 1916, Fleischer, A., Neue Chrysomeliden aus Japan.

Wiener Ent. Zeit. Jahrg XXXV, Heft. 5/6, pp. 222～223.

p.222, Crepidodera (Crepidomorpha) carinulata Fleischer (新種) として Harima から記録されたが, 現在では Liprus punctatostriatus Mots. のこととなる。

p.223, Luperus (Calomicrus) japonicus Fleischer (新種) として Harima から記録, 現在 Calomicrus 属。Gynadrophthalma japonica Fleischer (新種) として Harima から記録, 後にG. garretai Acardなる名が与えられ (Soc. Ent. France, Bull. 61, 1961) 現在属名 Smaragdina が使用されている。

⑧ 1929, Roubal, Coleoptera nova asiatica
Bull. Soc. Ent Italiana, 61(5～6), pp.97～98. p.97, Kobe, Dioryctus ogloblini Roubal（新種）として記載されたが中条博士により，長崎より記録れた D. lewisii Baly と同じであるとされている（1957）。

⑨ 1932, Kuwayama, Studies on the morphyology and ecology of the rice leaf-beetles, Lema oryzae Kuwayama, with special reference to taxonomic aspects
Hokkaido Imp. Univ., Jour. Fac. Agr. 33(1)
Lema decempunctata japonica var. bruneipennis Kuwayama (Kameoka in Hyogo Pref), この種はL. decempunctata Geblerのことである。

⑩ 1933, 関公一；御影町付近産の甲虫目録（その3）
昆虫界，Ⅰ，5，pp.491～494.
神戸並びに兵庫県からのハムシ目録として初めてのものであると考えられる。記録されたものは29種であり，学名の訂正すべきものもあるが，キベリハムシの記録は正式には本文が，これまた初めてであると考えられる。

⑪ 1934, 生田豊一；キベリハムシの産地
昆虫界，Ⅱ，7，p.118.

⑫ 1934, M. Chūjō; Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire（Ⅶ）
Trans. Nat.Hist. Soc. Formosa, XXⅣ, 135, p.528.
Donacia provostii FairmaireをG. Lewis がHyogoから（7—Ⅵ—1881）採集した記録がある。

⑬ 1934, 兵庫県博物学会神戸支部；布引・摩耶昆虫採集目録
兵庫県博物学会々誌，No.7，pp.62～68.
故中林馮次氏指導による布引・摩耶山に兵庫県博物学会神戸支部の採集会（2—Ⅶ—1933）をしたときの記録であるが，ハムシ科は4種でヨツボシナガツツハムシは県下でも少ない種である。なお，同誌pp.76～77にやはり神戸支部のおこなった市ケ原の夜間採集の結果が出ているが，和名のみで記録するにはちょっと不充分である。

⑭ 1936, 戸沢信義編；芝川家所蔵，昆虫標本目録，紫水遺稿別巻
故芝川又之助氏の採集並びに所有されていた昆虫類の目録で，福貴正三，玉沢修三郎，鈴木元次郎各氏の協力を得て戸沢氏のまとめられたもので，神戸付近での記録が数多くある。ハムシ科は48種記録されているが神戸並びに県下としてはっきり記録されているのは僅か6種にしかすぎない。

⑮ 1937, 手塚一雄；須磨産ハムシ科目録
Nature（神戸二中博物研究会々誌），No.8，p.27.
41種記録され仮称11種がある。

⑯ 1937, 平山修次郎；原色千種続昆虫図譜
pl.74, f.2, p.167.
六甲山産キベリハムシの図説（4—Ⅷ—1936）

⑰ 1938, 田中光照；きべりはむし
兵庫県中等教育博物学雑誌，Ⅰ，1，p.57.

⑱ 1938, 松本賢吉；キベリハムシに関する知見
日本の甲虫，Ⅱ，2，p.65.

⑲ 1938, 鏑木渡；キベリハムシ
昆虫界，Ⅵ，58，pp. 885～888.

⑳ 1939, 高橋寿郎；神戸産甲虫雑記
兵庫県博物学会々誌No.18，pp.51～53.
キベリハムシの産地について記録した。

㉑ 1939, 高橋寿郎；キベリハムシの新産地報告
昆虫世界，XXXXⅢ，508，pp.374～375.

㉒ 1940, 高橋寿郎；神戸再度山付近産の甲虫目録（Ⅲ）
昆虫世界，44，512，pp. 109～110.
再度山を中心とせるハムシ類18種を記録。

㉓ 1940, 高橋寿郎，神戸産甲虫雑記（Ⅲ）
昆虫世界，44，518，pp.311～314.
キベリハムシに関する報告。

㉔ 1940, 高橋寿郎；キベリハムシについて
昆虫界，Ⅷ，72，pp.104～112.

㉕ 1940, 高橋寿郎；キベリハムシの発生状況
昆虫趣味の会神戸支部報，No.4（昆虫界，Ⅷ，75）

㉖ 1940, 平山修次郎；原色甲虫図譜pl.50,f.2,p.159.
六甲山産キベリハムシの図説。

㉗ 1940, 岩本新一，レウスハムシ Crioceris の新産地
昆虫研究，Ⅳ，1/2，p.22.
氷の山で採集（7—Ⅷ—1937）された記録がある。氷の山からのハムシの記録では一番初めてのものである。現在本種は Lilioceris 属として取扱われる。

㉘ 1941, 高橋寿郎；烏原付近産ハムシ科について(1)。
昆虫趣味の会神戸支部報，No.6.
13種記録，この報文は後が続かなかった。

㉙ 1941, 増田猛，橋本直也；一中付近の昆虫
pp.13～19.（謄写版，単行本）
現在の神戸高校（旧神戸一中）を中心とした昆虫類の記録でハムシ科は65種記録された。

㉚ 1943, Heinze, Über bekannte und neue Crioceriner
Stett. Ent. Ztg. 104：106
Rokkosan, Lema diversa f. cyaeohumeralis Heinze

㉛ 1943, 高橋寿郎；神有沿線甲虫相（4）
昆虫世界，47，546，pp.46～47.
26種のハムシを記録。

㉜ 1943～1944，万濃誠三，高橋寿郎；神戸産金花虫相，第1報，鳥原を中心とせる付近一帯の金花虫目録。昆虫世界，47，554～556，48，557～560.

この報文は万濃氏と筆者とで鳥原を中心とせるハムシをまとめたものである。可成り訂正を必要とするが，入隊前にまとめたことで筆者には記念になる報文である。72種記録した。

㉝ 1950，和田義人；Lema属（金花虫科）雑記
Tritoma，Ⅰ，1，pp.24～25.

Lema diversa，Lema dalicatula 2種の斑紋の変化，食草についての記録でいずれも神戸付近産のものでの記録。

㉞ 1950，清水良介；金花虫雑記（Ⅰ），カメノコハムシ亜科　Tritoma Ⅰ，1，pp.26～27.

詳しい産地の記録はないが神戸付近産のものがふくまれている。

㉟ 1950，柴内俊次，中畔史雄；神戸虫便り
札幌昆虫同好会々報，No.1，pp.3～15.

ハムシ科3種（キベリハムシ，キイロネクイハムシ，キボシサルハムシ）の産地の記録がある。

㊱ 1951，M. Chūjō; Chrysomelid-Beetles of Shikoku, Japan (Coleoptra)，Ⅱ.
Trans. Shikoku Ent. Soc. Ⅱ，3，pp.31～43.
pp.33～35，Gynandrophthalma nippoenesis Chūjō，Cotypeに1♂，S. Iwao 氏採集の Mt. Mayasan 産のものが記録されている。（19—Ⅴ—1949）

㊲ 1951，西村公夫；昆虫2題 新昆虫，Ⅳ，10，p.36.

県下神崎郡長谷村栃原の小段ケ峯高原にてキベリハムシ1♂の採集記録。

㊳ 1952，一色宏八；カメノコハムシについて
Natura，No.8，pp.26～30.

氷上郡産のカメノコハムシ9種の記録がある。

㊴ 1953，山本義丸；兵庫県丹波地方の葉虫相
兵庫生物，Ⅱ，p.131.

氷上郡，多紀郡のハムシをまとめられたもの。同定は主として中条博士，133種の記録。

㊵ 1954，谷口行弘；石戸に於けるキベリハムシ
Natura，No.11，p.14

㊶ 1954，山本義丸；氷の山の昆虫
Natura，No.11，pp.7～9.

ハムシ類2種の記録。

㊷ 1954，山本義丸；キベリハムシの新産地と食草
新昆虫，Ⅶ，1，p.44.

氷上郡下の産地，宍粟郡三方村の産地の記録，食草としてマツグサを記録。

㊸ 1954，奥谷禎一；カタビロハムシの食草
新昆虫，Ⅶ，7，p.43.

篠山でのカタビロハムシの食草の記録。

㊹ 1954，M. Chūjō; Chrysomelid-Beetles of Shikoku, Japan (Coleoptera) Ⅲ.
Trans. Shikoku Ent. Soc. Ⅳ，4，pp.51～62.
pp.57～59，Lochmaea (Tricholochmaea) semifulva (Jacoby)，産地にMt. Mayasan，lex.,15—Ⅴ—1949，S. Iwao 氏 leg.♂の記録あり。

㊺ 1955，高木吉雄；兵庫県のキベリハムシ
新昆虫，Ⅷ，12，p.43.

川西市一の鳥居での採集記録。

㊻ 1955，近畿甲虫同好会編；原色日本昆虫図鑑（保育社版）pl.18～21，pp.61～72.

ハムシ科は後藤光男氏の担当で兵庫県産（産地，採集年月明記）のものが14種図説されている。

㊼ 1956，中条道夫；図説，食葉はむし類
（全国森林病虫獣害予除協会刊）

筆者並びに山本氏の送付した県下産の標本の記録が8種ある。

㊽ 1956，M. Chūjō; Contribution to the Fauna of Chrysomelidae (Coleoptera) in Japan (1)
Mem. Fac. Lib. Arts & Edu. Kagawa Univ.，Ⅱ，31.
pp.11～12，Hamushia eburata (Harold)，柏原産（1♀，1—Ⅵ—1951，山本氏採集）

㊾ 1956，中条道夫；日本産ハムシ科雑記(5)
新昆虫，Ⅸ，10，pp.2～5.

イタビハムシの解説であるが，その中で筆者の送った標本による摩耶山での記録がある。

㊿ 1956，高橋寿郎；きれいな甲虫
兵庫県生物誌，pp.58～61.

兵庫県産キベリハムシとカタビロハムシについて記した。

(51) 1957，M. Chūjō; Chrysomelid-Beetles of Shikoku, Japan (Coleoptera) Ⅳ.
Trans. Shikoku Ent. Soc. Ⅴ，4，pp.49～52.
pp.49～51，Dioryctus lewisii Baly，筆者採集の1♂（11—Ⅶ—1939），1♀（6—Ⅶ—1941）（共に鳥原産）が記載に用いられている。現在属名は Adiscus が使用されている。

(52) 1957，大槻孝司；氷の山妙見山の昆虫
Natura，No.14，pp.41～45.

ハムシ科4種の記録。

(53) 1958，氷の山調査団；氷の山の昆虫及び植物
Natu-ra，No.15，pp.17～19.

ハムシ科17種の記録。

(54) 1958，高橋寿郎；セスヂクビボソハムシ氷の山に産す
昆虫学評論，Ⅸ，1，p.14.

㊺ 1958，山本義丸；兵庫県氷上郡昆虫目録
氷上の自然，第3集，pp.95—100.
氷上郡下に産する昆虫のリストであるが，ハムシ科のものは150種記録されている。主として中条博士の同定である。
㊻ 1958，高橋寿郎；キベリハムシについて
新昆虫，XII，7，pp.12～13.
㊼ 1959，高橋匡；氷の山の甲虫
Natura，No.16，pp.28～42.
氷の山からのハムシ44種の記録。
㊽ 1960，高橋匡；氷上郡昆虫目録追加(1)
Natura，No.17，pp.100～106.
1959年版"氷上郡昆虫目録"の追加篇でハムシ科12種の追加記録。全部中条博士の同定である。
㊾ 1960，田中光照；特産甲虫キベリハムシ
兵庫の自然，p.38.
㊿ 1960，J. Madar; Zur Frage der Zoogeograhischen Verbreitung der Chaetocnema Concinnicollis Baly mit Beschreibung zweier Neuen Halticinen-Formen (Halticinae, Col.)
Mushi，XXXIII，7，pp.47～49.
p. 48，Chaetocnema concinnicollis kaibarensis Madar，山本義丸氏採集の柏原産1♀(5—VII—1951)によって新亜種とされた。
(61) 1960，M. Chūjō & S. Kimoto; Descriptions of three new Genera and a new species of Chrysomelid-Beetles from Japan, with some notes on the Japanese species
Niponius，I，4，pp.1—10.
p.3. Hapsidolema dilectipes (Fairmáire) 日本のハムシとして初めての記録であるが産地の中に山本氏の採集された柏原産3標本がふくまれている。現在属名はOulema.
(62) 1961，足立勲；扇ノ山採集記
Natura，No.18，pp.29～35.
ハムシ科8種の記録。
(63) 1961，高橋匡；キベリハムシ山南地区に産す
Natura，No.18，p.65.
(64) 1961—1962，鳥居正史；六甲山系甲虫目録(I)(II)
Shida，No.9，pp.4～6，No.18，pp.11～20.
共に長田高校生物部々誌に発表されたもので，ハムシ類は(I)で37種，(II)で3種と計40種記録されているが和名だけである。別に特記すべき種はない。
(65) 1962，M. Chūjō; Description of a new Chrysomelid-Beetle from Japan
Niponius，I，18，pp.1～3.
G. Lewis氏がHiogo から採集された1♂，1♀標本によって新種として Lilioceris (s. str.) balyi Chūjo と命名発表された。詳しい採集場所，月日がわからないがL. subpolita (Mots.) に似た種で，今後大いに調査する必要がある。
(66) 1962，藤田悦久；六甲山に分布するルリハムシ亜種 (Linaeidea aenea insularis Chūjō) について
兵庫生物，IV，3/4，pp.143～145.
(67) 1962，山本義丸，高橋匡；氷上郡昆虫目録追補（第1集）
文献(55)の追加篇で文献(58)のものもふくまれているが15種のハムシが記録されている。
(68) 1963，辻啓介；但馬扇ノ山甲虫目録(1)
兵庫農大生物研究部々誌，No.3，pp.24～47.
扇ノ山からのハムシ（pp. 42～43，60）30種の記録。
(69) 1963，高橋匡；出石郡昆虫目録（第1報）
Vita，創刊号，pp.27～30.
柏原高校から出石高校に転勤になられた高橋氏が同校科学部生物班会誌創刊号に出石郡の昆虫目録（第1報はトンボと甲虫類）をまとめられたもので50種のハムシが記録されている。出石郡のハムシは初めての記録である。
(70) 1964，高橋寿郎；珍しい甲虫類
六甲の自然（六月社版，新版）
(71) 1964～1965，S. Kimoto & I. Hiura; A List of the Chrysomelid specimens preserved in the Osaka Museum of Natural History (Insecta: Coleoptera)
Bull. Osaka Mus. Nat. Hist. (I) No.17. pp.5～8，1964 (II) No.18，pp.31～48，1965.
大阪の自然博物館所蔵ハムシ類の目録であるが，兵庫県産のハムシが(I)に14種，(II)に23種採集データーと共に記録されている。
(72) 1964～1966，S. Kimoto; The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands
Jour. Fac. Kyushu Univ.,
木元新作博士の労作で表題の如く現地点での日本産ハムシ類の分類で1報から11報まで(収録種148属481種，うち17の新種あり）で完結している。その中で兵庫県産としてはっきり産地が明示してあるもの16種がある。
(73) 1965，M. Chūjō & M. Ohno; A Revision of Lupermorpha-species occurring in Japan and Loo-Choo Islands (Coleoptera, Chrysomelidae, Alticinae)
Mem. Fac. Lib. Arts & Ed. Kagawa Univ. II，No.131，pp.1～16.
トビハムシ亜科のうちホソトビハムシ属の日本産種の研究で3新種の記載をふくむ，そのうち兵庫県から3種

が記録され，本報文で初めて学名を与えられた新種 Luperomorpha tokejii Chūjō et Ohnoの Paratypes に1♂，1♀，神戸市金剛童子山産（24—Ⅵ—1956）の標本がふくまれている。この標本は筆者並びに村西氏の採集したものである。

㉔ 1966，高橋寿郎；氷の山の甲虫相
兵庫生物，Ⅴ，2，pp.161～164.

以上で文献による兵庫県産ハムシ類の研究を眺めてきたが，ご覧の如く神戸市を中心とした地域，氷上郡，出石郡と扇の山，氷の山の地域がわかっているのみで，その他の地はほとんどが調べられていないと言っても過言でない。今後大いに調査する必要がある。本文では出来る限りその他の地の調査も含ませておいた。

兵庫県産ハムシ目録

現在の知見での兵庫県産ハムシを記録する。各種の記載は省略し1950年以後出版されている代表的図鑑に図説されている種については略号で示した。すなわち

A．1950，日本昆虫図鑑（北隆館版），ハムシ担当，湯浅啓温

B．1955，原色日本昆虫図鑑，上巻（保育社版），ハムシ担当，後藤光男

C．1963，原色昆虫大図鑑，第2巻（北隆館版），ハムシ担当，中根猛彦

各種についての県下の分布状況，生態に関しては説明を入れておいた。

Family Chrysomelidae Leach ハムシ科

日本産ハムシ科は16亜科に分けられているが兵庫県にはそのうち1亜科のみを産せず（この亜科の日本産は1亜科，1属，1種のみである），15亜科にふくまれる。

Subfamily Zeugophorinae Chūjōモモブトハムシ亜科

日本産本亜科には1属，2亜属，9種が知られているが比較的個体数の少ないグループで兵庫県下からは1種のみしか知られていない。

Genus Zeugophora Kunzeモモブトハムシ属
Subgenus Pedrillia Westwood

1. Zeugophora (Pedrillia) annulata (Baly)
ワモンモモブトハムシ
A—P.1188, f.3415. B—pl.18, f.359, p.61.
C—pl.160, f.16, p.320.

兵庫県下では稀種に属し氷の山にのみしか採集出来ていない。一般に高地帯に分布しているようで伯耆大山あたりには多くいる。食草としてニシキギ，マユミ，クロヅルが知られている。生活史については詳しくわかっていないが老熟幼虫の記載のみは林氏のものがある。
(New. Ent. Ⅻ, 5, pp.1～3, 1962)
産地；養父郡氷の山（2exs., 27—Ⅶ—1956）

Subfamily Megalopodinae Lacordaire
カタビロハムシ亜科

日本産は1属1種が知られているのみである。

Genus Temnaspis Lacordaire
カタビロハムシ属

2. Temnaspis japonicus Balyカタビロハムシ
A—p.1190, f.3422. C—pl.160, f.21, p.320.

本種の出現期は4～5月の頃で個体数は極めて少ない。食草はトネリコ，ネズミモチ，イボタノキが知られている，生態は充分調べられていないが，次の文献は貴重である。尾田，新昆虫，Ⅶ，4，pp.40～41，1954，高倉，新昆虫，Ⅷ，5，pp.52～53，1955，北九州の昆虫，Ⅷ，1，pp.2～3，1961.

産地；神戸市兵庫区山の街（1♂，29—Ⅳ—1959），同丹生山（1♂，5—Ⅴ—1956），多紀郡城南村竜造寺（1ex.，26—Ⅳ—1953，山本，1953），同郡城北村藤岡奥（1ex.，16—Ⅳ—1954，奥谷，1954）

Subfamily Donacicinae Kirby
ミズギワハムシ亜科

この亜科のものは，幼虫は水生植物の水面下にある根や茎を食し，成虫は一般に水生植物の水面上に露出している部分に生活する。中にはイネの害虫としてよく知られた種もふくむ。

本亜科の日本産は3属12種1亜種を産するが，兵庫県産は3属5種を産す。

兵庫県産 Donaciinae 亜科の属の検索表

1　上翅は金属的でない。先端に2つの棘を有し，会合線は隆起する。跗節は大変長い。第3節は大変短く二つの裂片に分かれる。爪のある節は残った節より長い。…… Macroplea Samouelle

—　上翅は金属的，あるいは不透明であり，先端には棘を有していない。跗節はむしろ短い。下方に軟毛を有する。第3節は二裂片に深く分かれている。爪のある節は残った節より長いことはない。……2

2　頭部は通常中央および側方に縦の凹線を眼の間に存す。大腮は短く，ほとんど隠れている。眼は円くやや大きい。上翅は一般に平たく屢々点刻を有する。脚細く脛節は曲る。……Donacia Fabricius

—　頭部には眼の間にただ一つ縦の凹線を有す。大腮は大きく隆起する。眼は小さい。上翅は一般には凸形で，会合線の後方部は上方に隆起し，前方には狭く滑らかなところがある。脚は強壮，前脛節は屢々先端に歯を有することがある。……Plateumaris C. G. Thomson

Genus Donacia Fabricius ミズギワハムシ属

日本産の本属は2亜属に分けられ兵庫県にも産す。

兵庫県産 Donacia 属の亜属の検索表

1　前胸背はほとんど，あるいは全く点刻無く滑らか。極めて微細なる明らかな横様状を呈し，あるいは横皺を有す。♂は第1腹節の中央に1対の小さな小瘤起を有する。…… Cyphogaster

—　前胸背明瞭に点刻を有する。皺状を呈し滑らかならず。♂は第1腹節上に上記の如き瘤起を有せず。…… Donacia

Subgenus Cyphogaster Goecke

兵庫県産 Cyphogaster 亜属の種の検索表

1　触角第3節は第2節の1½～1⅔の長さを有す。触角前部は強く発達している。♂後腿節は一般に先端から内側に小歯を通常1～3歯，または鋸歯状を呈する。…… provostii Fairmaire

—　触角第3節は第2節よりほんの少々長いか，あるいは同長である。触角前部はそうよく発達していない。♂後腿節は一般に内側に明瞭な小歯を上端の前に一つ，あるいはその上に有し，その間は鋸歯状を呈している。…… lenzi Schönfeldt

3. Donacia (Cyphogaster) lenzi Schönfeldt
ガガブタネクイハムシ

C—pl.161, f.1, p.321.

本種の生活史は詳しく知られていないが，食草としてジュンサイ，スイレンの1種，ガガブタが知られている。

古く兵庫，神戸の記録はあるが筆者自身未採集であり，個体数は多くはないのではないだろうか。

産地；Hiogo (Col. T. Lenze, Schönfeldt, 1888, Jacobson, 1892, Jacoby et Clavareau, 1904, Clavareau, 1913, Goecke, 1934, 1935), Kobe (Lewis, 1893, on water-lily Baly, 1873, D. aeraria, Schönfeldt, 1887, D. aeraria)

4. Donacia (Cyphagaster) provostii Fairmaire
イネネクイハムシ

A—f.3412, p.1187. B—pl.18, f.352, p.61. C—pl.160, f.23, p.320.

本種はイネの害虫としてよく知られているが故に本亜科の種では唯一の生活史の詳しくわかっている種である。生活史，幼虫期の記録とも次の文献に詳しく出ている。

1. Y. Takahashi; Colour Pictures of Japanese Injurious to Crobus, pl.13 (1954), 2. 農林省農業改良局，農作物病害虫原色図鑑，Vol. II, pl. 11 (1954), 3.T. Nishida; Shin Konchu, VIII, 9, p. 49 (1955), 4. T. Ishihara; Taxono-Agronomic Entomology of Japan, p.358 (1957), 5. 林長閑，日本幼虫図鑑，p.491, f.922 (1959)

イネの害虫でイネ（禾本科）を食害する以外，ヒルムシロ，ウキクサ，ジュンサイ等も食害する。

兵庫県の記録は古く知られているが，どうも調査不充分の如くあまり産地は知られていない。

産地；Hiogo(7—VI—1881, Col. G. Lewis, Chūjō, 1934, Goecke, 1934)，氷上郡柏原(山本，1953, 1958)

Subgenus Donacia Fabricius

本亜属の日本産は6種知られているが兵庫県産は1種のみである。

5. Donacia (s. str.) japana Chūjō et Goecke
アカスジミズクサハムシ

C—pl.161, f.4, p.321.

本種は中条博士および Goecke 氏により京都産の標本でもって新種として発表されたもので（Akitu, V, 3, pp.60～62, 1956），兵庫県下からは初めての記録である。生態に就いては詳しくわかっていない，食草もスゲ属の1種としかわかっていない。兵庫県下からは氷の山山麓大久保にて得られたのみで稀な種と考えられる。

産地；養父郡氷の山（12exs., 24—VII—1958）

Genus Macroplea Samouelle
フタトゲミズクサハムシ属

本属の日本産は1種のみであり県下にも産する。

6. Macroplea japonica (Jacoby)
フタトゲミズクサハムシ

A—f.3411, p.1187. B—pl.18, f.351, p.61. C—pl.160, f.22, p.320.

本種は県下では極めて稀なようで筆者未採集，次の記録がある。成虫も水中に生活するということがわかっている以外生活史も不明，食草もスゲの類としか知られていない。

産地；神戸（柴内，中畔，1950），宝塚（IV—1949，後藤，3exs., 15—IV—1949, Ueno leg.1964）

Genus Plateumaris C. G. Thomson
オオミズクサハムシ属

本属の日本産は2亜属7種1亜種を産するが兵庫県からは1種のみ知られている。

Subgenus Plateumaris C. G. Thomson

7. Plateumaris (s. str.) sericea (Linné)
キヌゲオオミズクサハムシ

B—pl.18, f.353, p.61. C—pl.161, f.10, p. 321.

本種も兵庫県下から氷の山々麓でのみしか記録されていない。調査の要ある種である。生活史も知られておらず，食草として日本での記録はないがヨーロッパではサジオモダカ，キショウブが知られている。

産地；養父郡氷の山（2exs., 24—VII—1955）

(10—VI—1966)